

JAPIC NEWS

JAPIC
Japan Pharmaceutical Information Center

一般財団法人 日本医薬情報センター

今月の表紙 まんりょう



Contents |

■ 巻頭言

「わからないこと」

一般財団法人 日本医薬情報センター 会長 首藤 紘一 … 2

■ インフォメーション

1月末発売!

JAPIC「医療用・一般用医薬品集インストール版2018年1月版」…………… 4

JAPIC「OTC医薬品CD-ROM 2018年1月版」…………… 4

■ コラム

くすりの散歩道 No.116 「薬味たっぷり、あったかりラックス」

(一財)日本医薬情報センター 事業部門 医薬文献情報担当 山内 美香 … 5

■ トピックス

JAPICサービスの紹介

「JAPIC附属図書館」…………… 6

「医薬品情報リテラシー向上のための情報ソースとしての薬局ヒヤリ・ハット事例の分析」

(一財)日本医薬情報センター 事業部門 データベース検索サービス課 山田 耕司 … 8

外国政府等の医薬品・医療機器等の安全性に関する規制措置情報よりー(抜粋) …… 10

■ 図書館だよりNo.331 情報提供一覧…………… 11

1

わからないこと

一般財団法人 日本医薬情報センター 会長
首藤 紘一 (Shudo Koichi)



人工知能AIという話がこの数年、世の中をにぎわしている。AIができることは、山ほどある。多くの場合、便利であり、省力化できる。しかし、AIができないこともたくさんある。AIは、学習する。おそらく決まった学習しかできないだろう。将棋の学習をしたからといって、チェスには応用できるだろうが、麻雀はおろか、理科の勉強など到底できない。AIは発生する余計な事柄には関心もない。しかし、どんどん進化しているらしい。人にはできないこと、わからないことが、無限にたくさんあり、その認識は、人しかできないし、人でも考える人(わからないと思う人)にしかできない。しかし、AIは数値やデータの記憶やそれらの相関など数が多い事柄の扱いは得意で人が束になってかかっても、太刀打ちできない。だから、AIは人の見落としや、気付かないことをみつけるだろう。AIは、作業課題に疑って取り組まない。

人は疑うことができる。伝説とは語る人も聴く人もそれを信じて語られる(プリタニカ)とあるが、これはコンピュータにとっての事だろう。人は伝説を信じたり、疑いつつ信じたふりをしたり(つもりになったり)、その疑いを押し殺したり、やむなき行動で抗議したり、一方、全く馬耳東風や完全無視もできる。伝説はルール化されるといってもいいが、人は、必ずしもそれに従わないことができる。AIはこのような伝説の取り扱いには弱いのではなからうか。

100年も前にスペインに Cajal (1852-1934) という偉大な神経科学者がいて、顕微鏡しかない時代に神経組織や脳の精密な解剖を研究したノーベル賞科学者がいた。彼の著作(1928)の中に「ヒトを含む高等動物では

中枢神経系は再生しない」と解することができる一行がある。その後、これに疑いを持つ人や、それを否定する実験もいくつもあったのに、今でも、まだ定説となっており、多くの医学教科書の記述となっている。このCajalの強い伝説を打ち破るには、世の中の大勢に抵抗し、孤独の中で、報告もままならず、時間がかかり、この間、むくわれない研究は山ほどあっただろう。一旦ルール化され、大勢が一応、納得していることを否定するのは強力な力がある。世の中は保守的なのである。今の、iPS細胞を誰でも知っている時代になっても、いまだ多くの論文や教科書は、神経再生を恐る恐る扱っている。すくなくとも今は、神経細胞の再生は可能であることは、専門家ばかりでなく、一般の人でも信じているか、信じたふりをしている。脳の中には神経幹細胞は存在し、それらは全能性ではないが、神経系の細胞に分裂し分化する。Cajal伝説が破綻した今は、アルツハイマー病やパーキンソン病も神経難病も幹細胞を移植すれば治るとの再生医療の可能性が現実的なものとして刷り込まれている。そこで、今度は、神経幹細胞を適切に移植したら、神経疾患が治癒するとの新しい伝説をも生み出すかもしれない。この期待されている新技術が伝説に終わらないように、神経の再生医療よ、頑張ってくれ。

脳血液関門 (Blood Brain Barrier, BBB: Ehrlich 1913) という概念がある。これは血管から神経細胞へは普通の化合物は通過しないという伝説化した神経科学のルールとなっている。これは血中のグルコースは自由には脳に移行せず、トランスポータータンパクが必要であり、必要十分の量のみが脳に供給されるということであ

る。血中に大量にあり変動が激しい糖やグルタミン酸などの神経伝達物質がやたらに脳へ移行するのを防がねばならず、脳-血液間の移動は制御されている。BBBはこれらの化合物の通過を制御するためのバリアーなのである。が、それが、伝聞されるうちに「生命にとって有害な(人工の)化合物は脳へ移行しない」と伝説化したルールとして語られる。新しい構造の精神神経系の医薬を考える時には、神経に作用する医薬品は多少とも、脳に移行すると思っているのに、BBBの話を持ち出すのだ。しばしば「BBBを通過するのですか」、という賢い質問が浴びせられる。そのたびに「レセプターやトランスポーターがある」とか、「BBBの揺らぎ(タイトジャンクションの隙間とか破たん)により通過する」と賢そうな解答がでる。この答も、ある時に出来上がった伝説を信じて、または信じたふりをして伝説を使っているからである。強い薬理作用のものなら非常に低い濃度の移行だけで活性発現に十分である。特定の薬物のトランスポーターといっても、厳密に特異的ではないと考えるべきであろう。伝説は無知な者を説得あるいは納得させるための強力な手段としても使える。

脳には免疫機能がないといわれていた。これはBBBがタンパクなど大きな分子は通過させないということから発したのだろうが、これも伝説だ。タンパク質で大きな分子、アルツハイマー病のアミロイドβ(Aβ;脳内に蓄積した悪者とされている高分子)の抗体を、血中に投与して、脳中のAβを追い出すというアイデアは、この数年の臨床での結果では正しそうで、抗体を病変部まで持っていき、Aβを減少させる、神経でも免疫が働くのだ。しかし、アルツハイマー病の治療としては惨敗であった。このAβ発症原因説をも否定するものでもあり、Aβ伝説も誤りとなる運命にありそうだ。

遺伝や形態を司る核酸はわからないことが多い。核酸のDNAの構造とアミノ酸に対応するコード、複写、転写のシステムが解明され、核酸こそセントラルドグマとされ、1960年代からは、Crickらばかりでなく、多くの科学者も、学生も、私も、生命の秘密は、基本的には、これで解決したのだと刷り込まれている。しかし、長い長い核酸の配列*の中から、たとえば、一定の配列(たとえば、10塩基)の塩基配列の相補的配列を見つけるのは、全塩基を10塩基ずつ区切ったとしても3億の断片をチェックせねばならず、宛先のない郵便物を正しく特定の宛先に渡すように、

容易ではない。このように、細胞の核の中のDNAのある特定部分(細胞の核内に原則一ヵ所しかない)の認識がどうして起きるのかわからない。この相補的なヌクレオチド塩基との結合は安定な結合を形成できるから、普通の化学反応として成立することは簡単に理解できる。しかし、この長いDNAから特定の配列をみつけるには、反応速度論からは、二つの分子が、よほど近いところに「みえない糸のようなもの」で繋がってなければ、一定の間には、結合反応は進行しそうもない(宛名や宛先があっても、配達できない)。これを容易にやっつけるのが生物ということなのだろう。

ここも、おそらく、多くの人が疑問に思っていることの一つであり、核酸のDNAやRNAの配列の物理化学(エネルギー安定性)こそが生命だと考えると、いまのままでは、不十分な気がする。現在、理解している核酸セントラルドグマは伝説となるかもしれない。DNA配列の中にこそ生命の本質が隠れていて、まだ本質的な暗号の解読がなされていないだけだろう。この暗号あるいは仕組みがあるとすれば、暗号解読をお手のものとするAIとやらが発見あるいは解決してくれよう。

この解は、植物、昆虫、人を含めた哺乳類まで、真核生物すべてに共通であり、多くの生物の全ゲノムが数多く解読されてきている現在、この暗号を見つけることは可能と思える。何らかの高度な情報、それは生物の寿命という時間の制御や形態の決定なども含めたもの、を支配する共通の情報である。非常に複雑な配列かもしれないし、システムになっているかもしれない。判ってみると、案外と簡単な暗号かもしれない。

生命の本質はDNAの何処にあるのか、という疑問に対する解答は、AIに期待して、暗号をみつけてだしてもらえると、安易に考えている。しかし、この仮定と設問の中には解答がないかもしれない。そうすると難しい。AIでは何ができるのだろう。そこは、もう科学の世界とはいえない。

我々はいつも自由に生き、伝説というルールに縛られないようにしよう。生命の秘密の解明は、いまは、AIに頼るしかない。

*ヒト・ゲノムは全長30億塩基対(bp)。1塩基対の間隔が0.34nmですので、その全長は0.34(nm/bp)×30億(bp)=1.02m。この1段(0.34nm)を1cm(パチンコ玉弱)に拡大すると、3000万倍になるので3000kmとなる。

1月末発売!

JAPIC「医療用・一般用医薬品集インストール版2018年1月版」

- ◇医療用および一般用医薬品の添付文書情報を収録したWindows対応CD-ROM。(医療用は2018年1月、一般用は2017年12月までのJAPIC入手分を収録)
- ◇製品情報、医薬品集本文データの検索・表示・印刷・データ出力が可能。データ出力形式は、タブ区切り/カンマ区切りテキスト(csv)から選択可能。
- ◇薬価、先発品等/後発品情報、規制区分、剤形、添加物、薬剤識別コード情報なども収録し、さまざまな角度から検索可能。
- ◇完全インストール仕様により、スピーディな検索・結果表示を実現。
インターネット環境のない薬剤モニタリング業務などにも最適。
- ◇インターネット経由で、最新の添付文書PDFの表示も可能。
(医療用:週1回更新、一般用:月1回更新)
- ◆価格:単回¥13,000(+税)
年間セット4枚(1月・4月・7月・10月) ¥23,806(+税)



JAPIC「OTC医薬品CD-ROM 2018年1月版」

- ◇一般用医薬品(一部の医薬部外品含む)の添付文書記載情報(2017年12月までのJAPIC入手分)を収録したWindows対応CD-ROM。
- ◇一般用医薬品データの検索・表示・印刷・テキストデータ出力が可能。
- ◇「要指導医薬品」(スイッチ直後品目・劇薬等)も掲載。
- ◇検索項目は、成分名、添加物、リスク区分や小児に使える医薬品等。
- ◇インターネット経由で、添付文書PDFの表示も可能。
- ◇JANコードによる製品直接表示機能も搭載。
- ◆価格:単回¥3,000(+税)

【お問合せ先】事務局 業務・渉外担当 (TEL:0120-181-276、FAX:0120-181-461)

くすりの散歩道 NO.116

薬味たっぷり、あったかりリラックス

(一財)日本医薬情報センター 事業部門 医薬文献情報担当
山内 美香 (Yamauchi Mika)



年も明け、寒さもいよいよ本格的になってきました。寒い日の食卓には鍋料理が多く登場するようになりますね。味付けも薬味も、とにかく種類が豊富ですが、皆さんのご家庭ではどのようなお鍋を召し上がりますか？

我が家の鍋料理は、キムチ鍋や豆乳鍋も時々登場しますが、やはり一番は定番中の定番『水炊き』です。骨付きの鶏肉を煮込んで白濁したスープを使って作ります。そしてこのお鍋に欠かせない薬味が、大分県特産の『かぼす』です。とにかくたっぷり絞って使います。九州出身の我が家では、『水炊き』に『かぼす』は当然の組み合わせです。

皆さんは『かぼす』の果実を見たことがありますか？『かぼす』は都内のスーパーでは扱っていないお店も多く、『すだち』とよく間違われてしまうちょっと残念な柑橘類です。『すだち』はゴルフボールくらい、『かぼす』はテニスボールくらいと結構大きさが違うので、区別はわりと簡単につくのに、緑色の柑橘類といえば『すだち』なのでしょうか。先日、あまりに寒かったのでお鍋で暖まろうといつも『かぼす』を買いにスーパーへ。そしていつもの『かぼす』の棚へ手を伸ばすと、ん？あれっ？・・・何か違う・・・いつもは『すだち』の隣にあるはずなのにこれは？？なんと『かぼす』の定位置が『シークワサー』に取られていて『かぼす』がなくなっていたの

です。薬味コーナーでは緑色の柑橘類同士のなかなか熾烈な棚の争奪戦があるようです。この時は仕方がないので瓶入りの果汁で我慢しましたが、次我が家のお鍋の日までに棚の争奪戦に勝って『かぼす』が復活してくれることを願っています。

『かぼす』は、柑橘類なので当然クエン酸やビタミンCが豊富、そして独特な爽やかな香りが特徴的です。酸味と香りで食欲が刺激されるので、多少体調が悪いときでも、お鍋にかぼすで栄養をたっぷり取る事ができます。焼き魚や揚げ物などにちょっと絞っただけでも、食が進みます。変わったところでは、味噌汁に入れることも。食欲がないときに、皆さんも是非試してみてください。そして、『かぼす』の独特な香りにはピネンやリモネンといった成分が含まれており、リラックス効果も期待できます。果実が手に入った時は、お鍋料理で暖まり、残った皮をお風呂に浮かべてかぼす風呂。リラックス効果に加えて、冬のカサカサお肌もしっとりつやつやです。

薬味の中でもかなり地味な存在の『かぼす』ですが、この冬もその力を借りて、健康に過ごしたいと思います。

❖ JAPICサービスの紹介 ❖

■ JAPIC附属図書館



医薬品の臨床に関する資料を収集し、一般に公開している図書館です。

著作権法第31条の「図書館資料の複製が認められる施設」として、昭和48年政令に基づき国の指定を受けています。世界の医薬品集・薬局方は、他に類を見ない収集内容となっています。

開館日・時間

月曜～金曜 9:00～17:30 (当日複写受付 9:30～16:30)

休館日

土曜・日曜・祝祭日・年末年始 (12月29日～1月4日)

ご利用方法

受付カウンターで入館手続をお済ませの上、お入りください。
貸し出しはいたしません。
貴重な資料の汚損防止のため、飲食物の持ち込みは禁止しています。

コレクション

世界各国の医薬品集・薬局方、逐次刊行物、医薬品安全性情報誌などを所蔵しております。

レファレンスサービス

所蔵資料や資料の到着状況などのお問い合わせに応じております。
(tocho@japic.or.jp TEL 03-5466-1827 FAX 03-5466-1818)

蔵書検索・新着案内

JAPIC図書館検索メニュー <http://www.japic.or.jp/iyaku/>
所蔵資料については図書/雑誌(全資料)横断検索、雑誌タイトル検索、雑誌タイトル一覧をご利用ください。
新着資料については図書新着案内、雑誌新着案内でご確認いただけます。

● 国内で最も多くの医薬品集・薬局方を所蔵しています

JAPIC附属図書館は世界54か国の医薬品集、及び20か国の薬局方を所蔵しています。中には、国内の他の図書館には所蔵のない資料もあり、非常に貴重な資料として多くの方にご利用いただいております。最新の所蔵状況については、JAPIC図書館検索メニュー <http://www.japic.or.jp/iyaku/> でご確認いただけます。

● 学会開催情報を提供しています

日本国内で開催される医学・薬学関連の学会、地方会、シンポジウム、国際会議などの開催情報が検索できます。また、学会の抄録集・プログラムなど会議資料の所蔵についてもご確認いただけます。

なお、開催日・会場などは急に変更される場合がありますので、事前に開催事務局へご確認ください。

ー 医学・薬学関連学会開催情報検索

<http://www.libblabo.jp/igaku/igaku.htm>

・会議名、主催学会名、会長名、事務局名、会場名、開催地（都道府県）、開催年月日などから検索できます。



● インターネットから文献複写の申込みができます

著作権法第31条の「図書館資料の複製が認められる施設」として、昭和48年政令に基づき国の指定を受けており、著作権法第31条、および第42条に基づき、所蔵資料の文献複写サービスを行っております。JAPIC図書館検索メニュー <http://www.japic.or.jp/iyaku/> より所蔵をご確認の上お申し込みください。料金や著作権に係わる注意事項について事前にご確認ください。

所蔵していない資料については、他機関からの取り寄せもいたします。

JAPIC維持会員の方は、iyakuSearchを検索した結果から、そのまま複写の申込みが可能です。詳しくは、文献複写サービス <http://www.japic.or.jp/service/library/guidance.html> でご確認ください。

● ご利用料金

(税別)

区分	料金		維持会員	一般
	JAPIC所蔵資料	基本料金／論文・演題		600円
複写料金／頁		モノクロ	50円	80円
		カラー	150円	180円
JAPICデータベースからのお申込み (維持会員のみ)	基本料金／論文・演題		350円	
	複写料金／頁	モノクロ	50円	
他機関からの取り寄せ	基本料金／論文・演題		1,500円	3,000円
	複写料金		実費	実費

複写物は宅配便でお送りします。来館された場合はお持ち帰りいただくことも可能です。

料金のご請求は月末メ、翌月の初めに請求書をお送りいたします。

来館の場合は現金でのお支払いも承ります。

* CiNiiで蔵書を確認できるようになりました

国立情報学研究所が提供する目録所在情報サービス (NACSIS-CAT/ILL) に加盟し、JAPIC附属図書館の所蔵資料をCiNiiでも調べることができるようになりましたのでご活用ください。

CiNii <https://ci.nii.ac.jp/books/>



2017年7月9日 第20回日本医薬品情報学会総会・学術大会

一般演題(口演)7:「医薬品情報学の教育」

「医薬品情報リテラシー向上のための 情報ソースとしての薬局ヒヤリ・ハット事例の分析」

(一財)日本医薬情報センター 事業部門 データベース検索サービス課
山田 耕司 (Yamada Koji)

研究の目的

JAPICでは、医薬品の適正使用を推進するため、薬剤師の医薬品情報リテラシー向上を目的とした研究を進めております。本発表では、ヒヤリ・ハット事例を分析し、調剤薬局で実際に必要とされる情報源を検討するという観点から研究を行いました。

方法

調査対象とするヒヤリ・ハット事例として、公益財団法人 日本医療機能評価機構の、薬局ヒヤリ・ハット事例収集分析事業サイトで公開されているものを用い分析しました。(2017年4月7日時点で公開されていた50824件)

<http://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/>

こちらで公開されている事例データベースの内容を読み、医薬品情報で予防・解決できたであろうものを○、記載の内容だけでは判断がつかないようなものは△、医薬品情報で予防・解決できなかったであろうものを×として分類し、医薬品情報を活用することで予防、解決できたのではないかと事例を抽出しました。さらに、○や△とした事例について、ヒヤリ・ハットの予防・解決に活用できたであろう情報源についても分析を行いました。

結果

上記の基準で分類を行った結果、医薬品情報にて予防・解決できたであろう事例は、○が2.9%、○と△を合わせると全体の約6%となりました(下の表:左)。また、活用できたであろう情報源については右の表のようになりました。

分類	件数	割合
○	1458件	2.9%
△	1422件	2.8%
×	47917件	94%

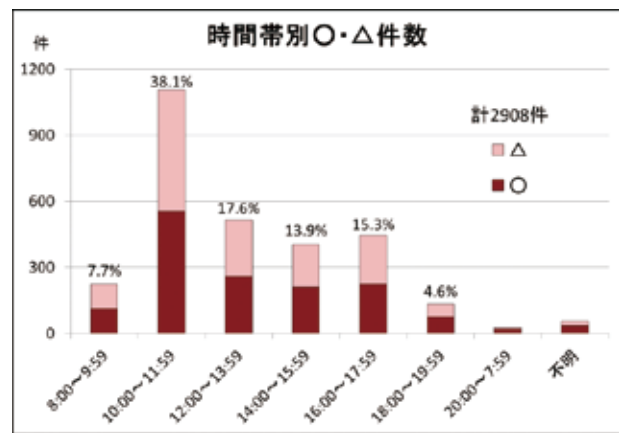
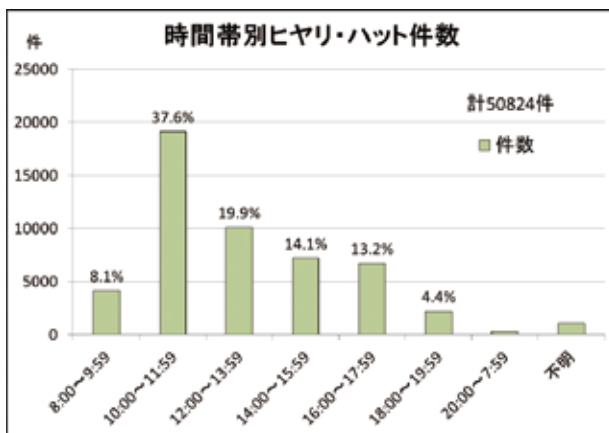
医薬品情報を活用して予防・解決できるヒヤリ・ハット:
全体の3~6%弱程度

情報源	件数	割合
医薬品添付文書	1963件	88.0%
同種同効薬についてのデータベース	229件	10.3%
その他	39件	1.7%

○・△の件数:29084件
情報源を特定できた件数:2231件

医薬品情報で予防・解決できる事例として用法・用量に関するものや禁忌に関するものなどが多かったため、情報源としては医薬品添付文書が最多となりました。また、同効薬の重複投与を避けるため、同種同効薬についてのデータベースも情報源として有用であることがわかりました。一方その他の情報源として、書籍やガイドライン、また疑義照会の際に文献報告が参考になる場合などが、少数ではあるものの見受けられました。

また、時間帯によってヒヤリ・ハットの発生に偏りがあるか調べたところ、ヒヤリ・ハット全体の時間帯分布として午前10時～12時の間に集中して発生していました。○・△と分類した事例についても、10時～12時の時間帯で約38%と集中しており同様の傾向がみられましたが、それ以外の時間帯にもある程度発生していることが読み取れました。



考察・まとめ

ヒヤリ・ハット事例のうち、医薬品情報を活用することで予防・解決できる事例は少ないながらも一定数存在することがわかりました。また、それらの事例の大部分に対して添付文書の情報が有用であり、一部には同種同効薬の情報も活用できることがわかりました。また時間帯別にみると、ヒヤリ・ハット全体が集中する時間帯がある一方、その他の時間帯にも医薬品情報の役立つ事例が発生していることがわかりました。これらのことから、薬剤師の方に次のようなことが提案できると考えました。

- まずは比較的手の空いた時間での事例から、医薬品情報を調べるよう心掛けましょう
- 見慣れない薬は特に添付文書をしっかり読みましょう
 - ⇒ 忙しい時間帯でも早く調べられるようになる
 - ⇒ 疑義照会の質が向上する

日頃から医薬品情報を調べるように心がけ、忙しい時間帯でもスムーズに情報を活用していただくことで、薬剤師の方のヒヤリ・ハット減少に繋がればと思います。

謝辞

本研究を行うにあたり、データをご提供いただきました公益財団法人 日本医療機能評価機構に深く感謝を申し上げます。

JAPICでは、薬剤師の医薬品情報リテラシー向上の一助となるよう、今回の研究から医薬品情報を活用することにより予防・解決できたと考えられる事例を取り上げ、大阪府薬剤師会発行の「大阪府薬雑誌」に事例紹介の記事を連載させていただきます。

外国政府等の医薬品・医療機器等の 安全性に関する規制措置情報より – (抜粋)

2017年11月1日～11月30日分のJAPIC WEEKLY NEWS (No.625-629)の記事から抜粋

■米FDA

- Abbott VascularのAbsorb GT1 Bioresorbable Vascular Scaffold (BVS) : 医療従事者向けレター-米FDAによる重大な心臓の有害イベントの発現率増加に関する調査
<<https://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm547256.htm>>
- 米FDAの長官 (Scott Gottlieb) の声明: ジェネリック医薬品のアクセスを向上させ、shared REMSに関するFDAのレビューを促進させるための新たなステップ
<<https://www.fda.gov/NewsEvents/Newsroom/PressAnnouncements/ucm584259.htm>>
- febuxostat (ブランド名Uloric) : Drug Safety Communication-米FDA、心臓関連死のリスク増加を評価へ
<<https://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm585281.htm>>
- 米FDAは包括的な再生医療政策の枠組みを発表
<<https://www.fda.gov/NewsEvents/Newsroom/PressAnnouncements/ucm585345.htm>>

■EU・EMA

- News and press releases : flupirtine含有医薬品のレビューが開始された
<http://www.ema.europa.eu/docs/en_GB/document_library/Press_release/2017/10/WC500237837.pdf>
- News and press releases : EMAはhydroxyethyl-starch含有医薬品について新たなレビューを開始
<http://www.ema.europa.eu/docs/en_GB/document_library/Press_release/2017/10/WC500237822.pdf>
- News and press releases : EMAはZinbrytaのレビューを完了し、肝臓のリスク低減のためのさらなる制限を支持
<http://www.ema.europa.eu/docs/en_GB/document_library/Press_release/2017/11/WC500238075.pdf>
- News and press releases : EMAはEUの医薬品の製品情報を改善するため、関係者と連携する
<http://www.ema.europa.eu/ema/index.jsp?curl=pages/news_and_events/news/2017/11/news_detail_002853.jsp&mid=WC0b01ac058004d5c1>

■英MHRA

- gabapentin (Neurontin) : 重度の呼吸抑制のリスク
<<https://www.gov.uk/drug-safety-update/gabapentin-neurontin-risk-of-severe-respiratory-depression>>
- isotretinoin (Roaccutane) : 勃起不全およびリビド減退の稀な報告について
<<https://www.gov.uk/drug-safety-update/isotretinoin-roaccutane-rare-reports-of-erectile-dysfunction-and-decreased-libido>>
- clozapine : 腸閉塞、宿便、および麻痺性イレウスの致死リスクの可能性に関する再度の注意喚起について
<<https://www.gov.uk/drug-safety-update/clozapine-reminder-of-potentially-fatal-risk-of-intestinal-obstruction-faecal-impaction-and-paralytic-ileus>>

■仏ANSM

- Cytotec (misoprostol) : 販売中止が2018年3月1日に発効-プレスリリース
<<http://www.anism.sante.fr/S-informer/Actualite/Cytotec-misoprostol-arret-de-commercialisation-a-compter-du-1er-mars-2018-Communiqu>>
- fingolimod (Gilenya) : 心疾患患者において禁忌-医療専門家向けレター
<<http://www.anism.sante.fr/S-informer/Informations-de-securite-Lettres-aux-professionnels-de-sante/Fingolimod-Gilenya-R-Contre-indications-chez-les-patients-presentant-des-maladies-cardiaques-Lettre-aux-professionnels-de-sante>>

■豪TGA

- 自家細胞および組織製品の規制
<<https://www.tga.gov.au/media-release/regulation-autologous-cell-and-tissue-products>>
- 医療機器の評価および消費者向けの情報を強化する
<<https://www.tga.gov.au/media-release/strengthening-assessment-medical-devices-and-information-consumers>>

JAPIC事業部門 医薬文献情報(海外)担当

記事詳細およびその他の記事については、JAPIC Daily Mail (有料) もしくはJAPIC WEEKLY NEWS (無料) のサービスをご利用ください (JAPICホームページのサービス紹介: <<http://www.japic.or.jp/service/>> 参照)。JAPIC WEEKLY NEWSサービス提供をご希望の医療機関・大学の方は、事務局業務・渉外担当 (TEL 0120-181-276) までご連絡ください。

【新着資料案内 平成29年11月1日～11月30日受け入れ】

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。この情報は附属図書館の蔵書検索 (<http://www.japic.or.jp/iyaku/index.html>) の図書新着案内でもご覧いただけます。これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。閲覧をご希望の場合は、JAPIC附属図書館 (TEL 03-5466-1827) までお越しください。

〈 配列は洋書、和書別に書名のアルファベット順、五十音順 〉

書名	著編者	出版者	出版年月
MRテキスト2018 MR総論	公益財団法人MR認定センター 教育研修委員会 監修、南山堂 編	公益財団法人 MR認定センター	2018年1月
MRテキスト2018 医薬品情報	公益財団法人MR認定センター 教育研修委員会 監修、南山堂 編	公益財団法人 MR認定センター	2018年1月
MRテキスト2018 疾病と治療 基礎	公益財団法人MR認定センター 教育研修委員会 監修、南山堂 編	公益財団法人 MR認定センター	2018年1月
MRテキスト2018 疾病と治療 臨床	公益財団法人MR認定センター 教育研修委員会 監修、南山堂 編	公益財団法人 MR認定センター	2018年1月
医療機器承認便覧<平成28年版>		業務公報社	2017年9月
日本の新薬—新薬承認審査報告書集—第80巻 平成28年1月承認分 平成28年2月承認分 平成28年3月承認分-1	一般財団法人 日本医薬情報センター	一般財団法人 日本医薬情報センター	2017年11月
日本の新薬—新薬承認審査報告書集—第81巻 平成28年3月承認分-2	一般財団法人 日本医薬情報センター	一般財団法人 日本医薬情報センター	2017年11月
日本の新薬—新薬承認審査報告書集—第82巻 平成28年3月承認分-3 平成28年5月承認分 平成28年6月承認分 平成28年7月承認分-1	一般財団法人 日本医薬情報センター	一般財団法人 日本医薬情報センター	2017年11月
日本の新薬—新薬承認審査報告書集—第83巻 平成28年7月承認分-2 平成28年8月承認分 平成28年9月承認分-1	一般財団法人 日本医薬情報センター	一般財団法人 日本医薬情報センター	2017年11月
日本の新薬—新薬承認審査報告書集—第84巻 平成28年9月承認分-2	一般財団法人 日本医薬情報センター	一般財団法人 日本医薬情報センター	2017年11月
日本の新薬—新薬承認審査報告書集—第85巻 平成28年9月承認分-3	一般財団法人 日本医薬情報センター	一般財団法人 日本医薬情報センター	2017年11月
日本の新薬—新薬承認審査報告書集—第86巻 平成28年9月承認分-4 平成28年11月承認分 平成28年12月承認分-1	一般財団法人 日本医薬情報センター	一般財団法人 日本医薬情報センター	2017年11月
日本の新薬—新薬承認審査報告書集—第87巻 平成28年12月承認分-2	一般財団法人 日本医薬情報センター	一般財団法人 日本医薬情報センター	2017年11月
要指導・一般用医薬品製造販売承認基準・申請実務の手引き<2017> (医薬品製造販売指針別冊)	レギュラトリーサイエンス学会監修、 日本OTC医薬品情報研究会 編著	株式会社じほう	2017年10月

情報提供一覧

【平成29年12月1日～12月28日提供】

出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合は当センター事務局 業務・渉外担当 (TEL 03-5466-1812) までお知らせください。

情報提供一覧	発行日等	JAPIC作成の医薬品情報データベース	更新日
〈出版物・CD-ROM等〉		〈iyakuSearch〉 Free	http://database.japic.or.jp/
1. 「添付文書入手一覧」2017年11月分 (HP定期更新情報掲載)	12月1日	1. 医薬文献情報	月 1 回
2. 「一般用医薬品 (経済課コード)」2017年11月分 (HP定期更新情報掲載)	12月1日	2. 学会演題情報	月 1 回
3. 「JAPIC NEWS」No.405 1月号	12月28日	3. 医療用医薬品添付文書情報	毎 週
〈医薬品安全性情報・感染症情報・速報サービス等〉 (FAX、郵送、電子メール等で提供)		4. 一般用医薬品添付文書情報	月 1 回
1. 「JAPIC Pharma Report海外医薬情報速報」 No.1111-1114 (旧: 医薬関連情報速報FAXサービス)	毎 週	5. 臨床試験情報	随 時
2. 「医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Qサービス)」	毎 週	6. 日本の新薬	随 時
3. 「JAPIC-Q Plusサービス」	毎月第一水曜日	7. 学会開催情報	月 2 回
4. 「外国政府等の医薬品・医療機器の安全性に 関する措置情報サービス (JAPIC Daily Mail)」No.4026-4045	毎 日	8. 医薬品類似名称検索	随 時
5. 「JAPIC Weekly News」No.630-633	毎 週	9. 効能効果の対応標準病名	月 1 回
6. 「感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)」No.723-726	毎 週	〈iyakuSearchPlus〉	http://database.japic.or.jp/nw/index
		1. 医薬文献情報プラス	月 1 回
		2. 学会演題情報プラス	月 1 回
		3. JAPIC Daily Mail DB	毎 日
		外部機関から提供しているJAPICデータベース	
		〈株式会社ジー・サーチJDreamⅢから提供〉	http://jdream3.com/
		〈株式会社日本経済新聞社から提供〉	http://telecom.nikkei.co.jp/

平成10年1月～平成28年12月承認分までの審査報告書の全文を収録!

日本の新薬

— 新薬承認審査報告書集 —

全87巻

◆最新の8巻を刊行。全87巻に!!

新薬96品目を追加し、全巻では1136品目を掲載。各巻22,000円(+税)

◆新薬開発、薬事・市販後対応、医学・薬学教育に!!

本書は、新薬の承認審査における厚生労働省の「審議結果報告書」および(独)医薬品医療機器総合機構等の「審査報告書」をすべて収録しております。

◆お得で便利なセットでの購入をお勧めします!!

全87巻セット **957,000円**(+税)

追加分8巻セット **88,000円**(+税)

※上記価格とは別に、JAPIC 維持会員様向けの割引価格をご用意しております。



一般財団法人 日本医薬情報センター (JAPIC) 編集・発行
丸善出版 株式会社 発売

JAPIC <http://www.japic.or.jp/>

上記書籍の他、電子カルテやオーダーリングシステムに搭載可能なJAPIC添付文書関連データベース(添付文書データ及び病名データ)の販売も行っております。データの購入希望もしくはお問い合わせはJAPIC (TEL 0120-181-276) まで。

Garden

ガーデン

このコーナーは薬用植物や身近な植物についてのヒトクチメモです。リフレッシュにどうぞ!!

やくち

「益智」と書く。和名は生薬名を音読み。学名: *Alpinia oxyphylla* Miq. ショウガ科はなみょうが属。多年性草本。中国南部に分布。日本では温室にて栽培。冬に白色で紅色の脈紋がある美しい花をつける。春に小さな蒴果をつけ芳香がある。セスキテルペンのNootkatoneやZdiarylheptanoidのyakuchinone類等含有。生薬「益智」は乾燥した種子(局方収載)。(hy)



JAPICホームページより
<http://www.japic.or.jp/>

HOME

サービスの紹介

ガーデン

Topページ右下部の「アイコン」からも閲覧できます。